

愛知県美術館では、企画展ごとにギャラリー・トークを行っていますが、所蔵作品展に関するギャラリー・トークも「コレクション・トーク」と題して今年度から始めています。

11月14日（土）に本年度の3回目として、今回の所蔵作品で特集展示をおこなっている『川瀬巴水の版画』を中心にお話ししました。



はじめに、展示室4で当館が誇るグスタフ・クリムトの《人生は戦いなり》を含めた20世紀の西洋絵画コレクションと当館の収集方針についてお話しし、次の展示室5では明治以降の日本の洋画家の多くがフランスに学んだことを黒田清輝、久米桂一郎や梅原龍三郎らを取り上げてお話ししました。実はここでのお話で黒田らが帰国後結成した白馬会の話を中心とした。それは、今回のお話の中心である川瀬巴水が日本画家の鏑木清方に入門する前に、白馬会葵橋洋画研究所で学んだ経歴のあることとつながったからです。



当館の川瀬巴水のコレクションは 2006 年に小川潤三・郁子夫妻から寄贈されたもので、今回はその中から 39 点の作品をご紹介します。

近年川瀬巴水らの新版画は注目度が高くなっています。浮世絵版画の伝統を引き継ぐ巴水の精緻な木版画は、多いもので 40 版も使って摺られています。その結果深い色合いの仕上げを堪能することができます。ぜひ会場へお出かけになってごらんください。

(ST)